

道徳

教えて! 加藤先生

教えて! 土田先生



千葉大学教育学部教授

土田 雄一

『小学道徳 ゆたかな心』(光文書院)監修

筑波大学附属小学校教諭

加藤 宣行

『小学道徳 ゆたかな心』(光文書院)監修

国際理解は道徳教育が源。 タイムリーな道徳授業を!

国際理解や多文化共生社会を含む「現代的な課題」について考えたとき、その解決の源となるのが、道徳教育です。答えのわからない問題に対して、誠実に向き合い、多面的・多角的に考え、粘り強く取り組む姿勢こそ、道徳教育で育むものです。

今年開催された「東京2020オリンピック・パラリンピック」には、「国際理解、国際親善」だけでなく、さまざまな道徳的諸価値に関連したエピソードがありました。パラリンピック開会式の「片翼の小さな飛行機」も素晴らしかったのですが、個人的には、パラリンピック水泳のバタフライ(視覚障害)で木村敬一選手が初めて金メダルを獲得した際、中継していた解説者がそろって号泣したことが心に残っています。4大会連続出場の木村選手のこれまでの努力、金メダルまでの長い道のりを知っていたからです。このような「感動」はぜひ子どもたちと共有したいですね。

教科書教材での学びを補完する役割として「タイムリーな教材」で学ぶことも大切です。

変革する資質

近年、近代文明の影響と言えるかもしれませんが、急速に世界が狭くなっていると感じます。移動手段ひとつをとっても、さまざまな乗り物が開発され、その移動速度は次第に速くなっています。「移動時間を短縮するために何もそこまでしなくても…」とも思いますが、時は金なり、その1分1秒が運命の分かれ道になることがあるかもしれません。

また、ネット環境の発達も著しいですね。世界で起きたニュースが一瞬で共有できることをはじめ、ここ数年は、オンラインの研修会が主流になり、全国各地から気軽に参加できるようになったばかりか、海外に滞在している方の顔を見ることもできます。

賛否は両論あるかもしれませんが、将来を担う子どもたちは、そのような世の中で生きていくことが当然の資質として求められます。そのときに必要な資質は、各種の知識・技能は当然のこと、いわゆる“グローバルな素養”でしょう。そして、それを育てることは、道徳の授業を通じて自らの世界を広げることに他ならないと言えるでしょう。